



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院 2021.6.第44号
 〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389
 e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://y-ikuji.sakura.ne.jp/

令和3年度が始まりましたが、昨年から続く新型コロナウイルスが依然として猛威を振るっており、終息の気配がありません。不慣れた生活を強いられています。このような状況に対し、我々はどう対処していけば良いのでしょうか。コロナ禍において、今まで知らなかった言葉を耳にするようになり、皆さんはすでに「共存」かもしれません。でも「ネガティブ」や「パリティ」という言葉です。調べているうちに、木蓮先生先生の著書に出会いましたので、参考にさせていただきます。

ネガティブ、パリティとは簡単に言えば、「答えのない事態に耐える力」という意味です。これに対して、「早急に問題を解決する能力」という意味で「ポジティブ」や「パリティ」という言葉もありません。通常「能力」と言えは物事の処理能力をさすことが多いと思います。ポジティブ、パリティです。我々が受けてきた学校教育がこれに当たるでしょ

う。しかし今、日本人に必要なのはその逆で、ネガティブ、パリティ、どうにもできない状態を回避せず耐え抜く能力だと言われます。

ヒトの脳には「分かる」とする本能があります。どうにもならない状況に直面すると不安になるため、それを回避しようとして、その状況に意味付けをして分かるうとするのだそうです。そして安心しようとする。つまり、人は分からないことに対する強い恐怖をもっていることになり、しかし、「分かる」と「分かった」つもりになることに大きな落とし穴があるとされます。分かったつもり、理解が低い次元に留まってしまう、より高い次元に発展しない。さらにその理解が誤っている、さらには深刻な状況に陥ってしまうというのです。少し乱暴な言い方かもしれませんが、実際に世の中にもならないことのほうが多いのが現実です。そうであるならば、

「なぜどうにもならないのか」という知的解釈を求めるよりも、その状況に耐える能力を養うことのほうが重要になってきます。それが「ネガティブ、パリティ」です。

前号の「待つということ」という文章で、私の師匠の言葉を紹介させていただきました。「人は危機に陥ると兎角動きたがるが、黙ってじっと嵐が過ぎ去るのを待つことも大事だ」。この言葉はまさしくネガティブ、パリティのことではないかと思えます。じっと待つことができる能力。言葉はいろいろでも、大切な教えはどこかで通じるものがあるのでしょうか。

この言葉を知ってからすぐに、仏教でいう「苦」が思い出されました。生老病死という所謂四苦は代表的な苦ですが、実は仏教では病や死そのものが苦しみだとは言いません。そうではなくて、「どうにもならないものをどうに

答えの出ない事態に耐える力

施設長

武重俊之

	本部		施設
	収	支	出
事業活動による収支			
収入			
措置費収入	0		168,384,582
その他の事業収入	0		3,263,029
経常経費寄附金収入	170,000		870,000
受取利息配当金収入	3,614		142,130
その他の収入	0		1,583,148
経常収入計	173,614		174,242,889
支出			
人件費支出	118,048		104,514,730
事務費支出	50,946		5,751,038
事業費支出	0		18,993,411
その他の支出	0		647,966
経理区分間繰入金支出	0		0
経常支出計	168,994		129,907,145
経常活動資金収支差額	4,620		44,335,744
施設整備による収支			
収入			
施設整備等補助金収入	0		1,753,624
固定資産売却収入	0		20,000
施設整備等収入計	0		1,773,624
支出			
設備資金借入金元金償還支出	0		1,320,000
固定資産取得支出	0		3,466,158
固定資産売却・廃棄支出	0		23,310
施設整備等支出計	0		4,809,468
施設整備等資金収支差額	0		-3,035,844
その他の活動による収支			
収入			
積立資産取崩収入	0		46,708
その他の活動による収入	0		0
財務収入計	0		46,708
支出			
積立資産支出	500,000		41,382,487
その他の活動支出計	500,000		41,382,487
財務活動による収支差額	-500,000		-41,335,779
当期資金収支差額合計	-495,380		-35,879

令和2年度の決算報告は次の通りです。今後とも宜しくお願い申し上げます。



資産の部		負債の部	
流動資産	52,513,987	流動負債	4,043,482
固定資産	324,505,753	固定負債	16,000,351
基本財産	117,581,347	負債の部合計	20,043,833
その他の固定資産	206,924,406	純資産の部	
		基本金	61,852,105
		国庫補助金等特別積立金	84,680,668
		その他の積立金	186,500,000
		次期繰越活動収支差額	23,943,134
		純資産の部合計	356,975,907
資産の部合計	377,019,740	負債及び純資産の部合計	377,019,740

今年梅雨入りが例年よりも早く、また、長いようす。梅雨と言っても近年は集中豪雨が多くて、昔のようにしとしと長雨が降ることが少なくなりました。子どもの頃は、学校の行き帰りに紫陽花を見たりかたつむりを見つけて捕まえたりして遊んだものですが、今の子ども達はそういう経験ができるのでしょうか。近年は梅雨だけに限らず、だんだんと季節感がなくなってきたように思います。日本の美しい四季が感じられなくなってしまうのは何とも寂しい限りです。

我が家では今年も青梅を収穫して梅酒と梅ジュースを仕込みました。水で割ってもよし、炭酸水で割ってもよし。これも季節(自然)の恵みです。意識すればまだまだ季節を感じることはできるので、その時その時を楽しめるように工夫してみたいかがでしょうか。

(丁)

案内図



当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。

御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービスを実施しています。トワイライトサービス

仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス

病気、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

かしようとするところに苦しみが生じる」と説かれています。死は誰にでも訪れるもので逃れることはできません。それなのに「死にたくない」と思うところに苦しみは生じるのだと言います。逆に言えば、死をそのまま受け入れることができれば苦しみは生じないのです。自分の思うままにならないことをそのまま受け入れること。そのためには「どうにもできない状態を回避しよう」とせずに耐え抜く能力」が必要となります。

また、「知恵」と「智慧」という二つの言葉もネガティブケイパリティとポジティブケイパリティの関係に似ています。「知恵」とは、物事を論理的に考えて、効果的に処理する知性や能力を意味すると言われます。また、俗世間をつまづいていくために効果的なアイデア、考えという意味合いもあるそうです。それに対して

「智慧」は、ありのままの姿である真理（真実）を悟って、人の苦しみや悩みを乗り越える本質的な知の働きや能力を意味するのだそうです。ここでいう「知恵」がポジティブケイパリティで、「智慧」がネガティブケイパリティ

と考えてもよいのではないのでしょうか。これはどちらが優れているとどちらが必要かだと思えますが先述のように、今我々日本人はポジティブケイパリティ（知恵）に偏りすぎていて、ネガティブケイパリティ（智慧）が圧倒的に欠けているように思います。

「現代人は忍耐がなく、心身ともにもろいと言われます。起き上がり達磨さんを見てください。起き上がり達磨さんは頭は空っぽで重心は下腹（丹田）にあります。従って、転んでもすぐに起き上がれるのです。それに比べて理屈の多い優れた頭脳を持ち主である現代人は、頭が重いので一度転ぶと起き上がれない大きな欠点を持っています。今一度達磨さんのように下



腹に重心を置いて、行動実践できる力を養いたいものです」と言われています。頭が知恵（ポジティブケイパリティ）で下腹が智慧（ネガティブケイパリティ）と置き換えてもよいと思えます。ただし、頭を空っぽにするというのは何も考えないということではありませんが注意が必要です。下腹に力を入れて考えることが大切なのだと思います。

「ネガティブケイパリティ」は、19世紀のイギリスの詩人ジョン・キーツが生み出した言葉です。キーツは、ネガティブケイパリティの能力を持つことが人間の創造性の原動力となると言っています。また、17世紀の哲学者ブレイズ・パスカルも同じようなことを言っているようです。パスカルの原理等有名ですが、彼も、耐える能力がないことが人間の不幸の原因であると言っています。言い方は違いますが、二人とも同じ能力が重要だと言っているのだと思います。

言うは易く行うは難しで、簡単なようで非常に難しい問題です。

通常は問題に対する的確に、迅速に対処する能力が求められますが、ネガティブケイパリティはその真反対の能力です。論理を離れた、どのようにも決められない状態を回避せずに耐え抜く能力です。

「ネガティブケイパリティ」は、普段そのような教育を受けていない我々にとつても大切なことではないでしょうか。分かることはとても楽しく嬉しいことです。それを否定するものではありません。困難にあつて、解決できることはそのように努力すべきでしょう。何もせずにただ耐えるというのではありません。しかし人生においてはどうにもならないことのほうが多いのも事実です。寧ろ、学べば学ばほど分らないこと、どうにもならないことが増えていきます。分らなくないのです。それに耐える力、踏ん張る力を養うことで人生を豊かにできる。それくらいこの「ネガティブケイパリティ」は力を持っています。不確かな時代を生きる我々に本当に必要なことだと思います。

このコロナ禍という機会に、大人も子どもも、一度一緒に考えてみては如何でしょうか。

毎年きれいな花を咲かせてくれる百合の花が、今年も見事に咲きました。



今年も咲いたよ！百合の花！

この花は、現在小学6年生のM君が、3歳の時に球根をお小遣いで買って植えたものです。とても思い入れが強いようで、毎年「今年は咲くかな」と心配そうに見守っています。なぜか年によって花の色が変わることがあり、今年は真っ赤な花が咲きました。

小さい頃から一生懸命お世話をしていますが、常に気にかけています。



子ども達を見守る大人も、もしかしたら同じところがあるのかもしれない。手取り足取り、何もかも手をかけてやるのが決してその子のためになるわけではない。むしろ、常に気にかけて見守っていることで子どもは元気にのびのび育つのではないのでしょうか。

一輪の花にも生命を感じる、その感性が心を豊かにしてくれるのだと思います。人間も自然の一部だと言われますが、確かに自然から学ぶことはたくさんあります。心が純粹なだけ、大人よりも子どものほうが素直に自然に学んでいるのかもしれない。来年もきつときれいな花を咲かせてくれるでしょう。

もうすぐ夏がやってくる！！



今年は梅雨入りが随分と早く、長引いています。しかし、梅雨明け宣言前からすでに夏日や猛暑日になるなど、今年の夏も暑さで大変そうです。

しかし、昔から何となく夏が近づいてくるとワクワクするものです。学校では、昨年はコロナの影響でできなかった水泳授業が、回数も少ないものの始まり、子ども達も楽しみにしています。最近の子ども達はゲーム等で室内遊びが主流になっているようですが、それでも外でサッカーをしたり泥遊びをしたり、屋外での遊びも楽しんでいきます。

子どもの頃の夏休みの思い出といえばプールや海水浴もあります。が、蝉取り、スイカ、肝試しなど、ランニングシャツ一枚で走り回って遊んだことを思い出します。また小学生の時、親に内緒で友達と夜お寺に集まって肝試しをしようとする、それに気付いた親達が「祝！肝試し大会」という熨斗をつけたサイダーを1ケース差し入

れしてくれました。今考えるととても大らかな親が多かったように思います。

今はいろいろな制約が多く、また暑さも昔とは違います。地域性もあるのかもしれませんが、子どもだけで夜散歩することは危険な世の中になっています。それらのことも原因かもしれませんが、今はイベントをやる時には大人がお膳立てをして子どもが楽しむというのが当たり前になっています。大人と子どもと一緒に楽しむのももちろん良いのですが、子ども達だけの世界も大切にしたいと思うのは、今の世の中難しいことなのでしょうか。

今年もまだまだ新型コロナウィルスの影響で自由に外出をすることはできません。しかし、子どもは元来遊びの天才です。どんな状況でも自分達で楽しみを見つけ出して遊ぶでしょう。もうすぐ夏がやってきました。暑さやいろいろな制約に負けずに、思いっきり遊んでほしいです！